



小野 駿

日本パーカライジング
特別顧問

海外赴任先での 旅行の思い出

私 は1984年からマレーシアに5年間、1989年から米国オハイオ州に12年間海外赴任いたしました。やはり二国の文化の違いを経験したことが今も深く印象に残っております。

マレーシアに赴任して間もなくのこと、現地従業員の結婚式に招かれました。新郎新婦のきらびやかな結婚衣装にも目を見張り、見るもの聞くものみんな珍しく楽しいカルチャーショックを経験いたしました。村中の人がかぞってやって来ては祝福し食事をしていきます。その食事は当然マレー料理であり小学3年と5年生の子どもたちに食べられる物がなく、我慢させて帰途レストランを見つけて何とかお腹を満たしてやれたときにはほっとしました。今では懐かしい思い出です。

一方、米国では広大な国土に圧倒されいろいろの州を旅し、その魅力に触れました。グランドキャニオン、モニュメント

バレーにも忘れ難い思い出があります。行く先々のスーパーで食料を調達してはホテルの部屋で自炊することも時には楽しんでいたのですが、その日も延々長距離ドライブしてホテルでの一杯を楽しみに道すがらビールを求めて店を覗けどもどこもビールを販売していなくて、やっと一軒見つけて買うことができたのです。夜も9時となりそのときのビールの味は言うまでもありません。州が違うと法律も違い、聞いてみるとアメリカ先住民居留区では販売してはいけない法律がありどこの店でも販売していないのです。当然ホテルにも自販機はありません。日本はつくづく便利な国であることを実感した出来事でした。55年のサラリーマン生活を振り返ってみると、それぞれの赴任地での仕事の重責の合間にこのような貴重な体験もし、たくさんの良き思い出ができたことに感謝する次第です。



マレーシア



米国